シリーズ・病院

横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター

佐々木哲雄
皮膚科部長

横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター（通称：市大センター病院）は平成12年１月、720床で開院しました。私は平成13年３月１日に長谷哲男部長の後任として着任し、現在８ヶ月が過ぎたところです。長谷先生は平成11年７月に池澤善郎部長の後任として旧浦舟病院に赴任されたので、旧病院６ヶ月とセンター病院14ヶ月の間勤務されたことになります。相原道子先生は平成12年４月に福浦に移られるまでの２年間、池澤部長、長谷部長とともにセンター病院開院前後の大変な時期に勤務されました。私は新病院が開院してから約１年後に移ってきましたので、すでに引かれたレールの上に途中から乗ったという具合です。

センター病院所属の現在のスタッフは６名ですが、市大皮膚科（福浦）と一体として人事が決められていますので、平成13年度の前半は大学院１年次生の２名がセンターの診療に従事し、後半の10月からは２名の入局１年目の医局員がセンターで働いております。その他に、ローテートの研修医が１～２名、３～６ヶ月単位で回って来ており、貴重な戦力です。山川講師、掛水助手、勝野助手も関連病院から平成13年４月に着任しましたので、半年過ぎた現在でも、少ないスタッフで次々と押し寄せる患者を相手に悪戦苦闘の毎日です。写真①は外来でのスナップです。

写真①

外来患者は南区とその近隣の方々がほとんどで、場所柄から福祉（生保）の方も多いようです。人口の割に皮膚科医院や皮膚科のある病院が少ないとの印象をもっています。患者を逆に紹介したい場合でも、紹介先が少なく苦労しています。皮膚科の病床数は17です。帯状疱疹などの急性感染症は、別の感染症病棟に入れますので、皮膚科のベッドはこの半年でみる限り余裕がある時が多い現状です。リンパ腫や重篤な悪性腫瘍患者は福浦に紹介することが多いことも、満床にならない理由かと思われます。入院が必要と思われる患者の紹介先に是非ともセンター病院を加えていただけたら幸いです。特にアトピー性皮膚炎、薬疹、膠原病・脈管疾患やその類縁疾患などの免疫・アレルギー疾患を専門とするスタッフが多いですが、水疱症、乾癬、代謝性疾患、難治性皮膚潰瘍、腫瘍などすべてに対応できることを自負しております。なお、熱傷は熱傷センターがあり、専属のスタッフがおります。

写真②は最上階（15階）の展望室からのみなとみらい方向の眺望です。夜景もまた格別です。皮膚科

写真②

病棟のある13階からも北側には秩父の山々に加え、浅間山をはじめ上信越の山々も遠望できます。西側は丹沢山塊、箱根の山々と富士山、伊豆天城の山々、南には東京湾、三浦半島、房総半島が望めます。大勢の回診の際には、雄弁なスタッフが患者さんと応対している間、患者さんを横にして景色に見とれてしまう時もあります。福浦の附属病院時代は、皮膚科の病室から眼前に東京湾と房総半島、八景島、三浦半島などを眺め、心を休めておりました。

旧浦舟病院に12年（内外の出張の３年間を含めて）、福浦の附属病院に10年勤めて、また浦舟に戻りました。今でも木曜日は４時間ほど附属病院で膠原病・脈管外来を担当しております。浦舟で診療に追われて１日が終わりますと、時間的余裕のあった福浦時代が懐かしく思われます。センター病院皮膚科の充実を介して市大皮膚科の発展、地域医療の向上に寄与することはもちろんですが、皮膚科学への貢献もめざしてゆきたいと考えております。私的な病院紹介に終始してしまいましたが、市大センター病院に対しまして今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（平成13年10月31日記）

昭和大学横浜市北部病院

宋　寅傑
皮膚科

昭和大学横浜市北部病院は平成13年４月１日、日曜日に横浜市都筑区で産声を上げました。当院は横浜市営地下鉄のセンター南駅から西方向の小高い丘の上に建てられています。駅から見ると一辺約80mのほぼ正方形に近い中央棟が正方形の二辺を駅の方向に向けて配置しており、来院する人々は駅からその外観を望みながら、ちょっと上り坂なのですが、歩行者専用の遊歩道を通って病院に到着するようになっています。勿論、自動車での来院者のための地下駐車場も完備しております。中央棟は地上９階、地下３階で、小さな道路をはさんだ後方に地上４階の西棟と12階の看護職員寮が建てられております。

院内の内装には自然の木目と大理石がふんだんに使われており、見た目がかなり豪華で病院よりもシティホテルに近い印象だとの意見もしばしば聞かれます。建物の新しさと豪華さの由に当院が昨年９月までフジテレビで放送していた人気ドラマ“救命病棟24時”の撮影舞台となっていたことは近隣でも有名です。とにかく当院の建設にはかなりの元手がかかっているようで、職員一同その元手を取り返すための営業努力を日々懸命に行っております。

建設費もさることながら、当院にはもうひとつ元手がかかっていることがあります。それは、電子カルテシステムです。このシステムは検査、処方、予約などのオーダリングシステムに加えて日常診療の診療録の記載、病名登録、紹介状や診断書などの文書類、X線やCT、MRIなどの画像といったものすべてをパソコンの中に封じ込めてしまおうというもので、結果として、当院の診療デスクには診療中、紙類はメモ用紙以外何も置かれていません。院外処方箋、他院への紹介状、診断書などは電子カルテの画面から印刷して患者様にお渡ししています。また外部から御持参いただいた紹介状やフィルム類は事務部門にて電子カルテへの取り込みを行っています。このような先進的なシステムは世界にも稀だとのことです。

電子カルテの利点と欠点ですが、まず利点としては以下のことがあげられます。

◇誰が記載したカルテでも字がきちんと読める。
◇前回診療と同じ事項（処方、処置、所見など）を記載する時はコピー機能が使えて便利である。
◇他科のカルテや画像も直ちに引き出すことができ、自科他科の外来入院ともにカルテを捜し回る手間が無い。
◇処置や検査など記載だけ行えば会計に飛び、会計の取り損じが無い。

◇検査レポートをその場で印刷して患者様にお渡しできる（これはかなり喜ばれています）。
◇いくらカルテ記載を続けてもペンのインクで手が汚れることがない、などがその利点です。

その一方、欠点としては以下のことがあげられます。

◆入力が手書きよりも遅い。特に疲れたり焦っていたりすると指の動きが乱れて誤操作を繰り返し、入力にさらに時間がかかることになる。
◆時にシステムの根幹部でダウンが起こり、全部または一部の作業が手作業になってパニックを招く。
◆苦労して入力した事項が原因不明のまま確定前に突如消失することがある（これは起きるとかなりショックです）。
◆カルテの使用状況が過密になるとコンピューターの動きが鈍くなり、なかなか次の画面に進まない。
◆以上の結果、医師がパソコンばかりを見て患者様の方向を向かず、患者様から批判を浴びることがある。
◆外来では好奇心の強い患者様がパソコンの画面を一字一句見落とすまいと覗き込み、記載する医師が大きなプレッシャーを感じることがある。
◆端末があるところでは何でも見られるが、端末が無いところでは何も見られない。

またこれは利点か欠点か場合によりますが、誰が何時どこで誰のカルテを開いて仕事をしていたかが全て記録に残る点も電子カルテの恐るべき特徴です。

以上が電子カルテの概要ですが、このような“先進的な”システムのお蔭もあって、当院の常勤医師数は病床数650床に対し、11月現在115名と大学病院としてはかなり少なめに抑えられております。ちなみにナースの日常勤務も電子カルテのナース用画面によって行われており、ナースの数も通常の施設より少なめに抑えられております。

当院の診療科目としましては呼吸器・消化器・循環器・周産期・救急の各センター、および内科・小児科・皮膚科・放射線科・臨床検査科・外科・脳神経外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・麻酔科・病院病理科・精神神経科・緩和ケア科の各診療科、加えて電子カルテの中枢である医療情報部があります。形成外科とペインクリニック科は未だ開設されておらず、これは皮膚科にとっては不便な点です。

皮膚科の医師は現在、宋寅傑（講師）、浜口太造（助手）、島田洋子（院外助手、女優とは別人です）、鈴木由貴（院外助手）の４名です。皮膚科の初診は月曜：宋、火曜：浜口、水曜：島田、木曜：浜口、金曜：宋、土曜：交代制で担当しております。また、当院にはマイナー科当直という当直枠があり、皮膚科は泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科とローテーションを組んで１名ずつ当直の勤務に当たっております。土日休日も日当直がありますので土日休日に皮膚科医が日当直勤務に当たることもあります。

当院の外来患者数は、今のところ目標よりもやや少なめですが、最初にも述べました通り当院の設立には通常を上回る元手が投じられているため病院全体で今後もう少し患者数を増やす必要があり、現在皆でその方策を検討しているところです。当院はヒトで言えばまだ幼児期に当たるのかもしれません。今後順調に発展して行くため、皆様のご支援をいただければ誠に幸いと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

追記：本稿投稿後、センター南駅の周辺に次々とビルが建設され、今では当院は駅からも遊歩道からもすっかり見えにくくなってしまいました。

聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院

村上富美子

はじめまして。今日は聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の紹介をさせていただきます。当院は横浜市21世紀プランにおける中核病院建設の一環として昭和62年に開院しました。所在は相鉄線の三ツ境駅から徒歩15分です（もちろんバスもあります）。車では保土ヶ谷バイパスの下川井インターから中原街道を厚木方面に進むと程なく右側に西部病院が見えてきます。病院の周囲には瀬谷市民の森、矢指市民の森があり、緑に囲まれています。

西部病院の理念は「生命の尊厳」・「人間社会への思いやりのある医療の提供」を行うことです。これは「キリスト教的人類愛に基づく生命の尊厳と人間社会への奉仕」という聖マリアンナ医科大学建学の精神に基づくものです。

病院の許可病床数は518床ですが、皮膚科はその内の２床です。そのため診療の中心は外来となっています。一般診療は月曜日～金曜日、土曜日（第２、第４、第５）の午前で、３診制です。午後は手術を中心に行っています。診療内容は腫瘍や潰瘍などの皮膚外科が中心で、次いでアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患や膠原病関連疾患が多くなっています。手術は木曜日のみが全麻手術で、あとは局麻手術を行っています。手術件数は近隣の先生方のご紹介もあり、月に70～80件ほどです。来院する患者さんは横浜市旭区と瀬谷区で70％を占めています。

スタッフの紹介をします。現在、辰野優子医長（写真左）と増子真理医長（同右）と私（同中央）の３名です。皮膚科外来のナースは常勤２名です。千葉紀子先生の定年退官にともない昨年4月より私、村上富美子が副部長として着任しております。

西部病院医局員

西部病院外観：手前を走るのが中原街道です

私は昭和59年に聖マリアンナ医科大学を卒業し、その後、平成５年までは形成外科学教室で勉強を重ね、平成６年から皮膚科学教室でお世話になって現在に至っています。大学ではシミ、真皮メラノサイトーシス（太田母斑、後天性両側性真皮メラノサイトーシスなど）と皮膚外科を専門としていましたが、西部病院では予算の都合でＱスイッチ・ルビー・レーザーやＱスイッチ・アレキサンドライト・レーザーなどがないため、大変残念ですが真皮メラノサイトーシスの患者さんの治療に関しては聖マリアンナ医科大学の本院や他の施設にご紹介させていただいております。

紹介はそろそろ終わりにして、本音を語りましょう。毎年春になると西部病院には黄色い煙を吐きながら恐怖の大魔王たちが周囲の森からやってきます。うっそうと茂る森の中心は過去の植林の名残であるスギです。車のボンネットや窓には黄色い粒子が粉雪のように積もるのです。その恐ろしさたるや毎日悲鳴の連続です。また、保土ヶ谷バイパス、中原街道と交通量の多い道路が近くを走っており排気ガスも多く、２年以上勤務している職員は50％以上が感作されスギ花粉症になってしまいます。ちなみに私も以前に２年半連続で勤務していたときに発症しました。「これは労災ではないか？」などと心密やかに思っているのですが…。みなさんがここをお読みになっている頃、私は魔王の手に落ちているかもしれません。

社会福祉法人恩賜財団
済生会神奈川県病院

畑　康樹

済生会は全国規模の社会福祉法人として、高松宮宣仁親王妃喜久子殿下を名誉総裁、寛仁親王殿下を総裁に戴き、「どんな生活環境にいる人にも、等しく医療と福祉の手をさしのべよう」という理想のもと、東京に本部、全国41都道府県に支部が設置されています。

済生会神奈川県病院は全国済生会の第１号病院として誕生し、地域の中核的な病院として地域医療・救急医療・福祉医療などに力を入れている病床400床の中規模な病院です。なかでも併設の神奈川県交通救急センターは「全次型完結型」の救急医療をめざし、一次・二次・三次の区分なく24時間受け入れ可能な体制をとっております。皮膚科は、約30年間おひとりで診療をされていました杉山信三先生が定年退職をされましたので、本年７月より常勤医２名で新たにスタートを切ることとなりました。

前医の先生がご高齢であられたこともあり、入院治療、外来手術も交代の数ヶ月前からは一切行われていませんでした。狭い診察室、遅いコンピューターに悩まされながらも診療を始めました。夏の時期ではあったものの外来患者数は１日40名から60名程度でしたが、コンピューターが増設されるまでは実質には１人で診ざるを得ず、患者さんに随分お待ちいただく状態が続きました。

現在では診療用コンピューターも２台に増設となり、外来手術も毎週水曜日の午後と木曜日の午前に行い、入院患者も少しずつ増えてまいりました。しかし、診療スペースだけは急にはどうしようもなく、患者のプライバシーもなにもあったものではない（診察している患者さんの横を別の患者さんがすり抜けてもう１つの診療空間に出入りする！）厳しい状況が続いていますが、これもレイアウトを工夫して狭いスペースを最大に有効利用していく予定です。

当院は病院の理念として「質のよい医療」、「優しい医療」、「信頼される医療」を掲げ、特に地域医療との病診連携を大切にしています。今後、近隣の皮膚科の諸先生方に気軽に、また安心してご相談いただけるような施設にすべく、環境を整えながらより一層努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。